

2016 年 9 月 1 日
慶應義高等学校
1 年 藤澤 宏多

2016年度国際ドイツ語オリンピック 報告書

場所：ドイツ、ベルリン

日程：8 月 17 日～30 日まで

正直、国際ドイツ語オリンピックは割とテストのような感じになると思っていたが、ここまで楽しいものになるとは思っておらず、本当に楽しく充実した2週間を過ごせた。

今回のドイツ語オリンピックには、早稲田学院の阪井健人君とともに参加した。現地に着いたときは建物の大きさに驚き、ついにオリンピック会場に来たんだ、と興奮しつつも緊張していた。しかし飛行機の搭乗時間もかなり長かったため、疲れて寝てしまった。起きた後ルームメイトのカメルーン代表の Lœic ポルトガル代表の Ricardo と顔を合わせた。Lœic とは空港でも少し話していたため安心できた。二人ともものすごく親しみやすく、すぐに友だちになり、共に過ごした時間はとても楽しめた。夜には、125 名の各国代表者が6つに分けられ、グループ毎にみんなの名前をより早く覚えるきっかけとなるようなヒトの名前を使ったミニゲームが 6 種類ほど用意されていて、しっかり名前を覚え、打ち解けることができた。

2日目は、バスでブランデンブルグ門に出かけ、門の下で集合写真を撮った。その後バスで街を回ったのだが、ここでもまだ長旅の疲れがとれておらず、寝落ちしてしまった。午後から早速試験の準備が始まり、自分はもうちょっと休みたいと思っていたのだが、なぜか Workshops がとても楽しく感じて休みたいことはすっかり忘れていた。

3日目は、試験の準備の第2工程に入り準備を進めつつも、待ちに待った国別紹介の打合せが始まった。国別紹介ではそれぞれの国がそれぞれのことをやるのだと思っていたがどうやらそうではなく、地域ごとにまとめられ、僕たちのグループは台湾、韓国、中国、タジキスタン、カザフスタンと日本で構成された。このイベントは楽しみでしろうがなくて阪井君ともいろいろ話をして、予定では自分が空手を阪井君がソーラン節を披露するつもりだったのだが、時間の都合上一つのことについてしか紹介してはいけないということになり、阪井君はかなり落ち込んでいたものの大人な対応で空手をやることを勧めてくれた。

その結果、日本は空手を披露することが決まり、僕が用意した説明の原稿を阪井君が読み、自分が型を披露することになった。他のグループによっては全員で踊ったりしているグループもあったが、アジアグループは共通で披露できなかった

め、台湾が指揮をとり宝くじが当たったから周辺の国へ旅行をする。というストーリーを作りグループのそれぞれの国を回ってそれぞれの国のことを披露することにした。

4日目は、もうそんなとこまで来たかと思うぐらいの早いペースで試験準備の第3工程に入った。この日は国別紹介のリハーサルを行って、本番で自分の声が枯れてしまうほど大盛り上がりし、最高に楽しい1日となった。

5日目は、一つ目の試験の壁新聞作成 Wandzeitung で、自分が選んだテーマに関する調査を行う場所を候補のなかから選び、そこに実際に行き、インタビューや写真をたくさん撮ったりした。僕はちょっとでも頭に引かかったことをひたすらメモっていたのであまり街を見る時間はなかった。この日は一つ目の試験 Wandzeitung が次の日に迫っていたので、かなり緊張感が漂う1日になった。

6日目は、試験の Wandzeitung があつた。3つのテーマからひとつを選んで3時間半の時間を使って壁新聞を作る作業だ。作成後展示されて、みんなの作品の独創性や工夫を見比べることができた。文字数の制限がかけられていたが、その制限のなかでも文字数が少ない人やものすごく多い人なんかもいた。次に、Jahrmarkt der Kulturen といって、それぞれの国から持ってきた出し物をテーブルに並べて、各国の紹介をしあい交流できた。Jahrmarkt der Kulturen には外部からも多くの一般人の来客があり、国別紹介で先生達からの評価が高かった合計11グループの中から6グループだけが選ばれて、もう一度国別紹介の内容を披露することになった。僕らのアジアグループもその中に入り選ばれて、そこで今度は準備してきたのにソーラン節ができないのはもったいないので、舞台上で空手の披露の前にソーラン節を少し短くして披露することにした。ソーラン節も大成功でものすごい歓声を受けることができた。

7日目は、二つ目の試験である Präsentation の準備時間が3時間設けられ、アルゼンチン代表の Sophia, カメルーン代表の Bony, インドネシア代表の Lia とともにブレゼンをやることになった。最初の30分ぐらいをずっとテーマを決められずに過ごしてしまい、かなり焦ったが、結果的にいい形で終わらせることができた。夜はディスコでみんなで踊ってはしゃいだ。

8日目は、ポツダムに歴史博物館を見に訪れた。興味深いものがたくさんあったが、量が多すぎたためすべてをじっくり見ることはできなかった。

9日目は、二つ目の試験である Präsentation があり、この日は僕を含めた A2 と B1 の人たちの試験が行われた。審査員3人に対して4人一組で発表を行い、審査員と向き合って演技をしなくてはならなかったため、かなり緊張した。しかし一人でなかっ

たためか、途中からは集中力が演技の方に向いて、緊張は最後にはほとんどなくなっていた。

10日目は、B2の人たちの試験があったため一日中フリーだった。暇している友達も少なくなかったため自分を含めて計 5 人でお好焼きを食べに行ったり二回ショッピングに行ったりした。

11日目は、三つ目の試験である quiz が行われた。自分の試験は午前中のかなり早い時間に終わったため、この日も自分の試験が終わってからはずっとフリーになった。

12日目も、試験 quiz の続きがあったためかなり長い間フリーだったが、この日の夜は Konzert があったので、みんなで会場に夜バスで移動した。頭のなかでは静かな会場で音楽を聴くぐらいだろうなと思っていたが、会場に着くと、想定とは打って変わってミラーボールがあり、バリバリのディスコだった。午後 6 時から 11 時とかなり長い時間そこに滞在していたため、途中で疲れてしまって、多くの時間は休憩スペースにいる他の子達といろいろなことについて話をして過ごした。

13日目は、実質みんなと過ごす最終日で、自分も含め多くの子達はセルフィーを撮り続けていた。朝には 3 時間ほど表彰式があって、午後は船に乗って、しばらく外で過ごした後、Jugendherberge に帰ってきて、2 時までディスコだった。他の人もいろいろなことをして思い出を残していたが、とりあえず自分は、できる限りの人たちから連絡先をもらった。

14日目は、みんなそれぞれの時間に合わせて、バスで飛行場や目的地に向かってそれぞれ帰って行った。ちなみに僕と阪井君は 5 時 45 分と非常に早い時間だったためたいへんだったが、なんとか起きることができた。しかしながら 3 名程寝坊する子達もいた。

ドイツ語オリンピックに参加しての感想

はじめに言っておきたいのはとにかく楽しかった。今まで 15 年間生きてきたが数々の海外での経験も含めて、今回は一番楽しく、充実した 2 週間が過ごせたと思っている。これを実現できたのも親、そして GOETHE の人たちのおかげですので、ここで改めてお礼を言いたい。ありがとうございました！

2 年後の 2018 年は、会場がフライブルグに移る。高校 3 年になっているが、参加資格があり、皆とも再会を誓いあったので、ぜひ今回の経験を基に 2 年後の参加とメダルを目指してがんばっていきたい。

以上